

情報科学研究科

I 2022年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2022年度大学評価結果総評】(参考)

情報科学研究科では、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育課程が提供されている。コースワークにおいて英語と日本語の両方の授業を適切な配分で用意している点や、リサーチワークに関して中間発表会をポスター発表形式で開催している点などは、教育・研究の質の向上の観点から評価できる。また、中間発表会における優秀者表彰や学生の投稿論文数や表彰数を学生間で共有する仕組みの整備など、学生の研究に対するモチベーションを高める取り組みがなされていることは評価できる。大学院教育のグローバル化に関しては、ダブルディグリープログラム(DDP)や理工学研究科と共同で英語による学位授与を行うIISTの実施、学生に対する国際会議発表の推奨・支援など、積極的な取り組みが行われており、今後のさらなるグローバル化の推進に期待する。また、2022年度から開始される情報科学・データサイエンス・AI履修証明プログラムは、社会人等に多様な学修機会を提供する社会貢献活動として大いに期待したい。

現状分析で挙げられている課題・問題点のうち、副指導教員の役割の再検討と入学試験科目の見直しは年度目標として設定されている課題でもあり、着実な遂行に期待する。中期目標については、2018-2021年度の中期目標に一部文言を追加したものとなっているため、今後の4年間では中期目標を達成できるよう適切な計画の策定と遂行が望まれる。

【2022年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

2022年度は履修証明プログラムの開始、2023年度は他学部や他大学からの推薦入試の開始など、多くの試みを導入している。一方で、こうした試みはPDCAを行う必要があり、短い期間で成果を回す必要があり短期的な評価が難しい。今後は、短期に達成できる試みの導入も検討していきたい。

II 自己点検・評価

1 教育課程・学習成果

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

1.1①授与する学位ごとに、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を記入してください。

本研究科の理念・目的及び教育目標のもと、所定の期間在学し、以下に示す水準に達した学生に対し、学位を授与する。

* 修士(理学)

修士課程では、所定の単位を修得し、修士論文の審査に合格した者に「修士(理学)」を授与する。この場合の審査は、独創性や創造性を要求する研究タイプと、高度な情報科学技術を駆使してプロジェクトを遂行できる能力を要求する開発タイプの両素養を考慮し、以下の基準に基づいて行う。

(研究タイプ)

DP1. 専門分野で十分な素養を身に付けていること、および、新規性のある概念等を構成できること。

(開発タイプ)

DP2. 専門分野で十分な素養を身に付けていること、および、既存の概念を組み合わせる有用な成果物を生み出す技術力を有すること。

* 博士(理学)

博士後期課程では、所定の単位を修得し、博士論文の審査に合格した者に「博士(理学)」

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

<p>を授与する。審査にあたっては、上記の修士課程の基準に加えて、以下の基準に基づいて行う。</p> <p>DP3. 情報科学の分野全般で高度な素養をもち、新しい研究領域あるいは新しい応用領域の開拓を行う能力を有すること。</p> <p>DP4. 新しい手法を提案した実績、あるいは、従来の手法の性能を著しく高めた実績を有すること。</p>	
<p>1.1②上記のディプロマ・ポリシーには、授与する学位において学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果が示されていますか。</p>	はい
<p>1.1③上記のディプロマ・ポリシーを公表していますか。</p>	はい
<p>【根拠資料】</p> <p>https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/daigaku_in/</p>	

1.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

<p>1.2①授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を記入してください。</p>	
<p>本研究科の学位授与方針を達成するために、以下のとおり、教育課程を編成する。</p> <p>修士課程</p> <p>修士課程では、専攻分野の周辺をカバーしつつ、国際社会で通用する高度な知識・技術を獲得できるよう、カリキュラムを編成する。具体的には以下の項目を考慮してカリキュラムを編成する。</p> <p>分野を複数の研究領域に分類し、それぞれの領域で最新の教育が行われるようにカリキュラムを編成する。</p> <p>研究タイプと開発タイプのそれぞれを目指す学生に対して、適切な教育を提供できるようにカリキュラムを編成する。</p> <p>学部課程で情報科学・技術を専門としていない入学者に対しては、情報科学・技術の主要な学部科目を履修できるよう柔軟なカリキュラムを編成する。</p> <p>国際化に対応したカリキュラムを編成する。</p> <p>（学生の学修方法、順序など）</p> <p>修士課程では、まず、大学院生の研究領域と研究・開発に応じて、科目の履修指導と研究指導を実施する。研究成果を、学内および国内外の会議等において研究発表することを推奨し、国際社会に通用する知識・技術を持つ高度技術者として育てるための教育を実施する。</p> <p>博士後期課程</p> <p>博士後期課程では、情報科学の分野全般を網羅する高度な知識・技術を獲得できるようコースワークを課す。また、研究や開発のプロジェクトにおいて指導力を発揮できる自立した研究者あるいは技術者としての資質を養うため、特別研究・特別演習を通して博士論文指導を実施する。</p> <p>（学生の学修方法、順序など）</p> <p>博士後期課程では、早い段階でコースワークを通して情報科学の分野全般に関する幅広い知識・技術を獲得しながら、計画的な学会活動を通して研究や開発のプロジェクトにおいて指導力を発揮できる自立した研究者あるいは技術者としての資質を養う。</p>	
<p>1.2②上記のカリキュラム・ポリシーには、授与する学位において学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成（教育課程の</p>	はい

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

体系、教育内容）・実施（教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等）方針が示されていますか。	
1.2③上記のカリキュラム・ポリシーを公表していますか。	はい
【根拠資料】	
https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/kyoiku_katei/daigaku_in/	

1.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

1.3①「法政大学大学院学則」第15条（「単位」）に基づいた単位設定を行っていますか。	はい
---	----

1.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

1.4①学生の履修指導を適切に行っていますか。	はい
1.4②シラバスの内容の適切性と授業内容とシラバスの整合性を確保していますか。	はい
1.4③研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュール）を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	はい
1.4④研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。	はい
【根拠資料】	
小金井大学院要項 I, 学期開始時に行うガイダンス資料（教授会で共有）、シラバスの第三者確認（教授会資料） 年間スケジュールは下記で公開。 (例：3月卒業の場合 https://cis.k.hosei.ac.jp/sotsuken/graduate-a/)	

1.5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

1.5①「法政大学大学院学則」第20条の2（入学前既修得単位の認定）に基づき、既修得単位などの適切な認定を行っていますか。	はい
1.5②「法政大学大学院学則」第22条（修了要件）、第26条（修了要件）に基づき、修了の要件を明確にし、刊行物、ホームページ等のいずれの方法によっても、予め学生に明示していますか。	はい
1.5③成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置を講じていますか。	はい
1.5④学位論文審査基準を定め、文章等によって予め学生に明示し公表していますか。	はい
【根拠資料】	
・小金井大学院要項 I (https://www.hosei.ac.jp/application/files/3616/7988/4095/22-23_2023koganei_20230327.pdf)	

1.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

1.6①分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定をしていますか。	はい
1.6②分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標に基づき学生の学習成果を把握していますか。	はい
1.6③学習成果を可視化していますか。	はい

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

【根拠資料】
大学学位授与方針のホームページ https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/daigaku_in/ 修士・博士論文中間発表会（情報科学研究科 第 277 回教授会議事録）、修士論文発表会（情報科学研究科 第 379 回教授会議事録）、博士学位審査（情報科学研究科 第 380 回教授会議事録）の実施

1.7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。
 また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

1.7①授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	はい
1.7②大学評価室による学生調査結果（新入生アンケート・修了生アンケート）を組織的に利用していますか。	はい

【根拠資料】
情報科学研究科 第 363, 371 回教授会議事録

(2) 特色・課題

以下の項目の中で、研究科として特に「特色」として挙げられるもの、もしくは「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものを選択し、記入をしてください。	
【教育課程・教育内容】【教育方法】【学習成果】 それぞれの項目の中で「特色」または「課題」を選択し、内容について記入してください。	
【教育課程・教育内容】	
<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの適切性と連関性の検証 ・学生の能力育成のための、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容の適切な提供 ・コースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせた教育の提供 ・専門分野の高度化に対応した教育内容の提供 ・大学院教育のグローバル化推進のための取り組み 	
特色	博士課程
コースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせた教育の提供	
2 科目 4 単位コースワークの導入しており、1 科目につき 2 教員の指導のもと、様々な課題に取り組んでいる。このコースワークにより、情報科学の様々な分野についての知識を獲得することに役立っている。	
【教育方法】	
<ul style="list-style-type: none"> ・教育上の目的を達成するための、効果的な授業形態の導入（PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等） ・授業がシラバスに沿って行われているかの検証（後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等） 	
特色	修士課程・博士課程
教育上の目的を達成するための、効果的な授業形態の導入（PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）	
修士課程・博士課程共に、卒業年度以外には年度中に中間発表を実施している。学生は学会のポスター形式を模した形態で発表することで、実践的な経験と議論を行うことができる。また、全教員が参加するため、様々なアドバイスをえることができる。	
【学習成果】	
<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価及び単位認定を行うための制度や学位授与の実施手続き及び体制についての適切な運用 ・学位の水準を保つための取り組み ・学習成果を把握する取り組み ・学習成果を定期的に検証し、その結果をもとにした教育課程およびその内容、方法の改善・向上に向けた取り組み 	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

特色	修士課程・博士課程
学位の水準を保つための取り組み	
学会発表を推奨し、成績にも反映されるようにしている。学会発表は、国内外の出張に対して出張費や参加費を補助する制度を設けており、研究科としてサポートしている。また、国際会議で発表する前に、オープンセミナー内で練習発表する場を設けており、他の教員からのアドバイスや学生同士が刺激を受けるような仕組みを導入している。	
その他、上記項目以外で研究科として「特色」として挙げられるもの、または「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものがありましたら記入してください。	
特色	
特になし	
課題	
特になし	

2 学生の受け入れ

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

2.1①研究科ごとに学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を記入してください。
<p>修士課程 （求める人材像） 修士課程では、情報科学分野を希望し、開講科目を受講するのに必要な知識と能力を有する志願者を広く受け入れる。</p> <p>（入学前に修得しているべき知識と能力） 修士課程への入学を希望する学生は、入学前において、以下の知識と能力を有することを条件とする。</p> <p>コンピュータ科学の体系を理解していること ネットワーク社会で活躍するのに必要なマナーと倫理観を有すること 現実社会における現象の抽象化とそのプログラミング技能を修得していること サイバー世界を理解し、自ら構築する能力を有すること 英語も含めたコミュニケーション力を有すること （入学者選抜の方針） 修士課程では、情報科学分野を希望し、開講科目を受講するのに必要な知識を有する志願者を広く受け入れる。そのために、以下に挙げる4種類の入学制度を設ける。</p> <p>学内推薦入学制度 本学情報科学部卒業予定者の中で、学部での成績上位者について、口述試験により判定する。</p> <p>一般入学制度（第1回、第2回） 筆記試験、および、口述試験により判定する。</p> <p>社会人特別入学制度（第1回、第2回） 小論文、および、口述試験により判定する。</p> <p>外国人学生特別入学制度（第1回、第2回） 書類審査により判定する。</p> <p>博士後期課程</p>

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

<p>(求める人材像) 博士後期課程では、修士課程に求める人材像に加えて、修士課程から現在に至る研究実績を持ち、博士後期課程の学生として相応しい研究遂行能力を有する志願者を受け入れる。</p> <p>(入学前に修得しているべき知識と能力) 博士後期課程では、修士課程の入学前に修得しているべき知識と能力に加えて、研究や開発のプロジェクトにおいて指導力を発揮できる自立した研究者あるいは技術者としての資質を有することを条件とする。</p> <p>(入学者選抜の方針) 博士後期課程では、以下のいずれかの項目を満たし、自立した研究遂行能力を有することを、小論文と口述試験により判定する。 ・国際会議等での発表経験があること、もしくは学会誌等への投稿実績があること。 ・修士論文における成果物等について、社会的に上記と同等の評価を得ていること。</p>	
2.1②上記のアドミッション・ポリシーには、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえた、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法が明確に示されていますか。	はい
2.1③上記のアドミッション・ポリシーを公表していますか。	はい
【根拠資料】	
<p>・大学の学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー) https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/ukeire_hoshin/daigaku_in/#12</p>	

2.2 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

2.2①アドミッション・ポリシーに基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制をどのように適切に整備していますか。また、入学者選抜をどのように公正に実施していますか。
学部成績優秀者に対して推薦を実施するなど、学生募集制度を充実させている。また、本年度から他学部や他大学の成績優秀者に対して推薦制度を導入している。筆記試験においては、試験問題を事前に複数教員によりチェックしている。口述試験は、事前に採点基準を明確にし、かつ、複数の教員で実施している。

2.3 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

2.3①【2023年5月1日時点】研究科・専攻における収容定員充足率は、下記の表1の数値を満たしていますか。	はい
--	----

2.4 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

2.4①上記項目において【いいえ】と回答した場合は、その理由と改善に向けた今後の取り組みについて記入してください。

表 1

研究科・専攻における収容定員に対する在籍学生数比率	修士課程	0.50以上2.00未満
---------------------------	------	--------------

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

3 教員・教員組織

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

3.1①研究科の求める教員像および教員組織の編成方針を記入してください。

情報専門科目教員資格についてのガイドラインに従い、適切な資質を持った専門科目教員を採用する。

専門科目教員を採用することでカリキュラムとの整合性の高い教員組織を編成する。

3.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

3.2①研究科の教員組織の編制は、理念・目的、教員組織の編制方針に整合していますか。

はい

3.2②教員組織の規模について、教育研究上必要となる数の専任教員がいますか。

はい

3.2③専任教員の専門性や、主要科目への配置など、教育を実施するうえでどのような体制をとっていますか。

教員の採用にあたっては情報専門科目教員資格についてのガイドラインに従い、適切な資質を持った専門科目教員を採用している。また、教員募集前に、教授会懇談会を開き、募集領域の研究・教育分野の適切性を議論している。この結果、カリキュラムと整合性が高く、バランスの保たれた教員組織となっている。外部に向け「理系学部研究室ガイド」に、研究領域と教員のマトリクスを示して公開している。

【根拠資料】

- ・情報専門科目教員資格についてのガイドライン
- ・理系学部研究室ガイド

3.3 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。

3.3①教員の募集、採用、昇任等の手続きや運用に関する規程は整備されていますか。

はい

3.3②上記の規定は、公正性、適切性が担保されるよう適切に運用されていますか。

はい

【根拠資料】

- ・情報専門科目教員資格についてのガイドライン
- ・英語教員資格についてのガイドライン
- ・自然科学教員資格についてのガイドライン
- ・情報科学部教授および准教授等資格内規
- ・情報科学部人事委員会細則
- ・情報科学部人事選考委員会細則
- ・情報科学部教員資格審査内規

3.4 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

3.4①研究科（専攻）内のFD活動は組織的に行われていますか。

はい

3.4②上記項目について【はい】と回答した場合は、2022年度のFD活動の実績（開催日・テーマ・参加人数）を記入してください。

- ・大学院講義である「オープンセミナー」は、教員の研究テーマについて交流する場と

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

して、全教員のプレゼンテーションが2年間で一巡する形式で実施している。	
3.4③研究科(専攻)内において研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。	はい
3.4④上記項目で【はい】と回答した場合は、研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための取り組みの実績(開催日・テーマ・参加人数等)について記入してください。	
オープンセミナー(第354回情報科学研究科教授会議事録)	

4 学生支援

(1) 特色・課題

以下の項目の中で、研究科として特に「特色」として挙げられるもの、もしくは「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものを選択し、内容について記入をしてください。	
【学生支援】	
<ul style="list-style-type: none"> ・学生の能力に応じた補習教育、補充教育 ・学生の自主的な学習を促進するための支援 ・学習の継続に困難を抱える学生(留年者、退学希望者等)への対応 ・成績不振の学生の状況把握と指導 ・外国人留学生の修学支援 ・オンライン教育を行う場合における学生への配慮(相談対応、授業計画の視聴機会の確保等) 	
特色	修士課程・博士課程
学習の継続に困難を抱える学生(留年者、退学希望者等)への対応	
年度初めに対面のガイダンスを実施して、学習に必要な情報を提示している。また、副指導教員を導入し、指導教員以外に相談できる機会を設けている。更に、学部GBC相談員との連携を行い、個別面談や、指導教員の変更など様々な対応をしている。	
その他、上記項目以外で研究科として「特色」として挙げられるもの、または「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものがありましたら記入してください。	
特色	
特になし	
課題	
大学院においても、学習の継続困難を抱える学生が増えているため、学部と同等のサポート体制の導入など、様々な施策の検討が必要である。	

5 教育研究等環境

(1) 点検・評価項目における現状

5.1 研究倫理を遵守するための必要な措置を講じ、適切に対応しているか。

5.1①研究科として研究倫理の向上及び不正行為の防止等について、公正な研究活動を推進するための適切な措置を講じていますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・必修科目のオープンセミナーにおいて研究倫理教育の実施 ・情報科学部・情報科学研究科 研究倫理委員会要領 	

III 2022年度中期目標・年度目達成状況報告書

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	情報処理学会あるいはACMが定めたカリキュラムを大学院向けに発展させた教科・科目を実施しつつ、先進的かつ社会的ニーズの高い教科・科目

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

	を柔軟に組み込む。学外研究機関や、産業界、地域社会等の多様な機関と連携し、学び直しを含め、研究タイプ・開発タイプなど多様なキャリアパスに対応した教育を展開する。国際化に向け、英語開講科目の設置や国際会議への参加を促進する教育体制を確立する。	
年度目標	情報科学研究科の4つの研究領域に対応する、発展的基礎科目の導入検討を開始する。合わせてAI・データサイエンスに関わる科目の導入検討を開始する。	
達成指標	科目候補の選定等の検討結果。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	4つの研究領域のうち、第3研究領域メディア科学の発展的基礎科目として、新規科目(応用解析入門)を2023年度から導入することを決定した。
	改善策	他の研究領域に関しても新規科目の検討を継続する。また、他学部からの進学者を対象に、情報科学部における専門科目内容が学べるような科目の導入検討を開始する。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	学び直しを含め、他分野からの学生が入り易くなるように発展的基礎科目を検討し、実際に新年度から新規科目を導入するに至ったことは評価できる。
	改善のための提言	研究科全体を見渡し、ニーズの高い研究領域から順次新規科目を導入していくことが必要と考える。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
中期目標	学生に幅広い専門性を身に付けさせるため、複数の教員が研究指導を行うような組織的な教育・研究指導體制の定着を目指す。国際化に向け、英語力を点検できる教育課程を確立する。	
年度目標	より組織的な教育・研究体制を目指すために、既に導入済みの副指導教員の役割を見直しを開始する。	
達成指標	副指導教員の役割の明確化。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	各学期に一度、学生と副指導教員が面談することを決定し、2023年度から実施する。また、2022年度は修士論文の副指導教員による抄録と本論の事前確認を徹底した。
	改善策	研究科長から学生への連絡を徹底することで、実施未達を防ぐようにする。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	学生が自分の専門領域の幅を拡げられるように副指導教員制度を運用してきたが、さらに副指導教員の関与を強めて、副指導教員との学期毎の面談や修士論文の抄録・本論の事前確認の徹底など、研究指導體制の組織化を進めたことは高く評価できる。
	改善のための提言	面談の内容については、研究の進捗報告のような性格を持たせてもよいのではないかと。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
中期目標	高度な専門的知識の修得、俯瞰的な視野の獲得、専門応用能力/コミュニケーション能力の養成を進め、成果を学外発表できる人材を育てる。特に、国際会議での発表を推奨し、学位授与時の評価に用いる。	
年度目標	不採択論文数の集約は以前から実施してきたが、データ収集精度を高めて、論文採択率を向上させるための施策の検討を開始する。	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

達成指標	学生による学外発表の回数、不採択論文数の把握。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	学会の発表数は約 30 件であった。不採択件数は、2 件(国際会議 1, 論文誌 1)であった。学会の対面参加数も増えてきており、発表補助金は有効に活用された。
	改善策	入力されたデータに不備があるものが多く、十分な解析まで結びつかなかったため、データ収集方法を見直す。また、卒業後の論文誌投稿等もあったため、合わせてデータの収集方法を検討し改善に努めていく。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	研究者としての学生の能力を高めるには学会等での対外的な研究発表が非常に有効であるため、学生による学会(特に国際会議での)発表を研究科を挙げて奨励していることは評価できる。
	改善のための提言	不採択件数については現状把握の意味もあると思われるが、不採択にならないように指導教員による論文投稿前の指導を丁寧に行うことも重要である。
評価基準	学生の受け入れ	
中期目標	一般入試、推薦入試等の制度を再検討し、多様なバックグラウンドを持つ学生が受験しやすい体制の確立と、入学者の適性判断の厳格化を目指す。IIST の活動を通じた留学生の確保に努める。社会人博士の受け入れを推進する。	
年度目標	DDP を終了し、IIST へ全面移行する。また、履修証明プログラムを立ち上げる。情報科学を専門としない学生の受け入れのための受験科目の見直し検討を開始する。	
達成指標	DDP の終了。IIST で受け入れた留学生、社会人学生、学内進学者、科目等履修生、履修証明プログラム受講者の人数。受験科目の見直し結果。	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	DDP に関しては、双方合意のもと、無事にプログラムを終了した。推薦入試に関しては、今までは学内の情報科学部学生のみを推薦対象していたが、本学別学部や学外の推薦入試を 2023 年度から実施することを決定した。また、アドミッション・ポリシーを見直し IIST に関する記述を追記することを決定した。
	改善策	受験科目の見直しについては、引き続き検討を続ける。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	多様なバックグラウンドをもつ学生を幅広く受け入れるために、様々な検討を行って制度の新陳代謝を実現したことは評価できる。
	改善のための提言	受け入れた学生が途中でドロップアウトしないような柔軟な教育・研究指導体制の検討も重要である。
評価基準	教員・教員組織	
中期目標	学部と連携した教員採用を行い、4 つの研究分野に適切に配置する。オープンセミナーや複数教員による学外資金獲得活動を通して、教員の研究交流を活発にする。	
年度目標	新任教員 2 名を迎え、教員組織の中で適切な役割を担わせることで、FD に努める。	
達成指標	新任教員のオープンセミナーでの発表、役割の付与状況。	
	教授会執行部による点検・評価	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

年度末報告	自己評価	A
	理由	新任教員 2 名のオープンセミナーでの発表を実施した。また、新任教員の専門分野に近い修士論文の副査を割り当てた。
	改善策	オープンセミナーでの発表をアーカイブ化するなど、各教員の研究内容の共有を進めていき、共同研究の実施を推奨する。これにより、外部資金の獲得数向上を目指す。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	学部と連携して専門領域や年齢分布にも配慮した教員採用が行われていると評価している。新任教員の研究分野を学生に周知させるためにオープンセミナーでの発表を実施したことも評価できる。
	改善のための提言	新任教員だけでなく、各教員のオープンセミナーでの発表をアーカイブ化して研究科全体で共有することは研究科の発展につながると思われる。
評価基準		学生支援
中期目標		学部と協力しながら、学生の学位取得後のキャリア支援体制を充実する。留学生向けの日本語教育の支援を継続する。留学生向けのキャリア支援体制を充実する。留学支援。
年度目標		キャリアの一つとして博士課程進学を位置づけて、進学者数の増加施策の検討を開始する。
達成指標		施策の検討結果。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	B
	理由	IIST 修士課程を終了した卒業生の、情報科学研究科の博士課程に入学することが決定した。留学時に取得した単位の認定を実施した。卒業生の将来的な社会人博士課程進学者数を増やすために、優秀な修士論文の学会誌への論文投稿を推奨した。
	改善策	ガイダンス時に博士課程について説明するなど、引き続き施策の検討と実施をしていく。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	博士後期課程への進学をキャリアの一つとして捉え、進学者を増やすための施策の検討を行い、実際に進学者を得たことは高く評価できる。修士学生数の増加のための施策の検討も重要であろう。
改善のための提言	引き続き学生数増加のための施策の検討が必要である。学生のキャリア形成において修士課程進学が持つ意味を周知させつつ、受験留学生の現状を把握し実態に合った受け入れ体制の検討も必要である。	
評価基準		社会連携・社会貢献
中期目標		社会貢献を意識した研究活動成果の公開を進める。外部資金による研究活動や共同研究を通じた研究内容の開示を行う。履修証明プログラムの受講者を増やす。
年度目標		外部資金による研究活動の一環として、科研費への応募や研究機関・企業との共同研究を推進する。履修証明プログラムの立ち上げ、キックオフイベントを開催する。
達成指標		教授会等における科研費への応募や研究機関・企業との共同研究の推奨。履修証明プログラムのキックオフイベントへの参加者。
年度末	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	学部のホームカミングデー(参加者 100 名程度)において、履修証明プログラムのキックオフイベントをハイブリッド形式で開催し多数の参加が

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

報告		あった。また、履修証明プログラムを春秋の募集に変更した。一方で、履修証明プログラムへの受講にはつながらなかった。
	改善策	引き続き、魅力的なプログラムの設計と、宣伝を続けていく。一定数の問い合わせはあるため、受講者につなげていきたい。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	教員の科研費の応募率が高かったことは評価できる。履修証明プログラムの立ち上げと周知のためのイベント開催も評価できる。
	改善のための提言	教員の研究成果をより広く公開するなど、外部資金の獲得や共同研究につなげられるような施策を検討・導入することで、研究科としての社会貢献・連携が進むと期待する。
【重点目標】 履修証明プログラムの立ち上げを重点目標とする。		
【目標を達成するための施策等】 学部ホームカミングデーにおいて、履修証明プログラムのキックオフイベントの実施し、まずは卒業生に向けて十分な広報活動を行う。		
【年度目標達成状況総括】 履修証明プログラムのキックオフイベントを学部ホームカミングデー(参加者 100 名程度)に合わせてハイブリッドで実施し、多数の参加者があった。また、履修証明プログラムを春秋の 2 回募集と変更することで、履修しやすくなる仕組みを導入した。発展的導入科目の導入決定や、学部外の推薦入試の決定など、来年度へ向けて多くの施策を行った。来年度はその効果を定量化していきたい。		

IV 2023 年度中期目標・年度目標

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	情報処理学会あるいは ACM が定めたカリキュラムを大学院向けに発展させた教科・科目を実施しつつ、先進的かつ社会的ニーズの高い教科・科目を柔軟に組み込む。学外研究機関や、産業界、地域社会等の多様な機関と連携し、学び直しを含め、研究タイプ・開発タイプなど多様なキャリアパスに対応した教育を展開する。国際化に向け、英語開講科目の設置や国際会議への参加を促進する教育体制を確立する。
年度目標	今年度から開始した発展的基礎科目に対する受講状況を調査し、他の発展的基礎科目の設計に活用する。また、様々なキャリアパスへの対応のため、学部のコース選択と同様に、学術成果以外にどのような成果を求められるのかの議論を開始する。
達成指標	発展的基礎科目の結果まとめと、他の新規発展的基礎科目の検討状況。学術成果以外の教育成果の検討状況。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	学生に幅広い専門性を身に付けさせるため、複数の教員が研究指導を行うような組織的な教育・研究指導体制の定着を目指す。国際化に向け、英語力を点検できる教育課程を確立する。
年度目標	副指導教員による半期に一度の指導を十分に機能させる。これにより、幅広い専門性を身に付けさせ、様々な観点から自身の研究を俯瞰できるスキルを身に付けさせることを目指す。
達成指標	副指導教員による半期に一度の指導の実施率が高水準であること。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	高度な専門的知識の修得、俯瞰的な視野の獲得、専門応用能力/コミュニケーション能力の養成を進め、成果を学外発表できる人材を育てる。特に、国際会議での発表を推奨し、学位授与時の評価に用いる。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

年度目標	学術成果だけでなく、展示会での展示や発表、OSS (Open Source Software) 活動成果、プログラミングコンテスト参加など、学術会議以外での学外発表を推奨する。また、どのような評価ができるか検討する。
達成指標	左記の学外発表件数と、評価方法の検討結果。
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	一般入試、推薦入試等の制度を再検討し、多様なバックグラウンドを持つ学生が受験しやすい体制の確立と、入学者の適性判断の厳格化を目指す。IIST の活動を通じた留学生の確保に努める。社会人博士の受け入れを推進する。
年度目標	他学部や他大学の推薦入試を円滑に実施する。また、多用な背景を持つ学生受入のための入試方法を検討する。
達成指標	推薦取得者数や、入試方法の検討結果。
評価基準	教員・教員組織
中期目標	学部と連携した教員採用を行い、4つの研究分野に適切に配置する。オープンセミナーや複数教員による学外資金獲得活動を通して、教員の研究交流を活発にする。
年度目標	2024年度からの新任教員の人事を行う。
達成指標	適切な新任教員の人事の実施
評価基準	学生支援
中期目標	学部と協力しながら、学生の学位取得後のキャリア支援体制を充実する。留学生向けの日本語教育の支援を継続する。留学生向けのキャリア支援体制を充実する。留学支援。
年度目標	進学・就職支援に関する学生への働きかけの方法や時期の変更を検討する。 GBC 相談員・学生相談室・事務・教員間での連携を行う。
達成指標	日本での就職を希望する留学生の就職率など。
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	社会貢献を意識した研究活動成果の公開を進める。外部資金による研究活動や共同研究を通じた研究内容の開示を行う。履修証明プログラムの受講者を増やす。
年度目標	公開講座の実施し、履修証明プログラムの認知度を高める。
達成指標	公開講座の参加者数や満足度を評価する。
<p>【重点目標】 副指導教員による半期に一度の指導を十分に機能させる。これにより、幅広い専門性を身に付けさせ、様々な観点から自身の研究を俯瞰できるスキルを身に付けさせることを目指す。</p> <p>【目標を達成するための施策等】 教授会での指導教員へのフォロー、学生への頻繁なフォロー(メール連絡やオープンセミナー内での告知、指導教員によるフォロー等)を実施する。実施状況についてのデータを適宜収集する。</p>	

【大学評価総評】

情報科学研究科では、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育課程・教育内容が提供されている。修士課程・博士課程共に学会のポスター形式を模した形態で中間発表を実施し、全教員が参加してアドバイスを提供する取り組みは、教育・研究の質の向上の観点から評価できる。また、学会発表を成績に反映される仕組みや、学会出張費や参加費を補助する制度を設けているとともに、国際会議で発表する前にオープンセミナ

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

一内で発表練習する場を設けるなど、学会発表に対するモチベーションや質を向上させる仕組みを導入している点は高く評価できる。

学生の受け入れについては、学部成績優秀者に対して推薦を実施するとともに、今年度から他学部や他大学の成績優秀者に対する推薦制度を導入しており、多様な背景を持つ学生を受け入れる試みとして評価できる。これらの学生募集制度が入学者数や教育効果に及ぼす影響を継続的に検証していただきたい。

また情報科学研究科では、学生と副指導教員が半期に一度面談する取り組みを今年度から実施する。学生に幅広い専門性を身に付けさせる効果があるとともに、学習の継続に困難を抱える学生に対する支援にもなり、優れた試みであると評価できる。本指導体制が高い実施率で維持・継続され、定着することが期待される。

【法令要件やその他の基礎的な要件の充足状況の確認】

2023年度自己点検・評価シートに記載された Ⅱ自己点検・評価（1）点検・評価項目における現状を 確認	法令要件やその他の基礎的な要件が充足していることが確認できた
<法令要件やその他の基礎的な要件が充足していない項目>	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。